

(資料3)

男性の性暴力被害者をめぐる問題

山口大学大学院医学系研究科
法医・生体侵襲解析医学分野
大竹優太、高瀬泉、林めい、藤宮龍也

YAMAGUCHI UNIVERSITY

【はじめに】～臨床法医学の視点から～

近年、DV・虐待・レイプなどの性暴力被害が深刻な社会問題として認識されている。しかし医療の現場では、未だ支援システムは確立しておらず、医療者は期待される役割を果たしているとはいえない。

性暴力被害の実情に対する理解が不十分であるため、**医療者や警察官が態度や言動により被害者を深く傷つける、二次被害 Secondary Victimization, Second Rape**の問題も生じている。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

【導入】 Introduction

性暴力被害においては・・・

男性 ♂ = 加害者
女性 ♀ = 被害者

という一元的な図式が立てられやすい

しかし、少年や男性の性暴力被害者も存在する。

性的イジメ、Domestic Violence、セクシュアル・ハラスメント、虐待、ネグレクト、パワー・ハラスメント、ペドフィリア(小児愛者)、痴漢、性的マイノリティ(同性愛者、両性愛者、無性愛者) etc...

YAMAGUCHI UNIVERSITY

国内外問わず、男性の性暴力被害は報告されている

- 日本では警視庁の性犯罪に関する統計によると、**男子に対する強制わいせつ**は平成21年度で**111件**、平成20年度で**183件**、平成19年度で**200件**にのぼる。
- 千葉県の教育委員会が県内の県立高校の生徒全員を対象に毎年行っているセクハラの実態調査では、平成22年度で**317人(0.7%)**、平成21年度で**492人(1.2%)**、平成20年度で**496人(1.2%)**の男子高校生のセクハラ被害が報告されている。
平成22年度 セクシュアル・ハラスメントに関する実態調査の結果について/千葉県
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/syokuin/sekuhara/h22chousa.html>

YAMAGUCHI UNIVERSITY

男性の性暴力被害 (海外)

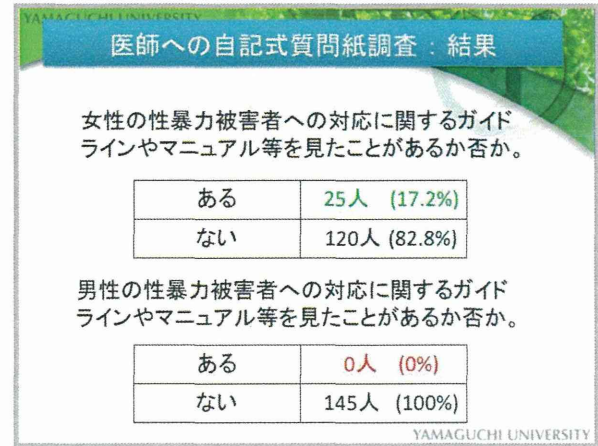
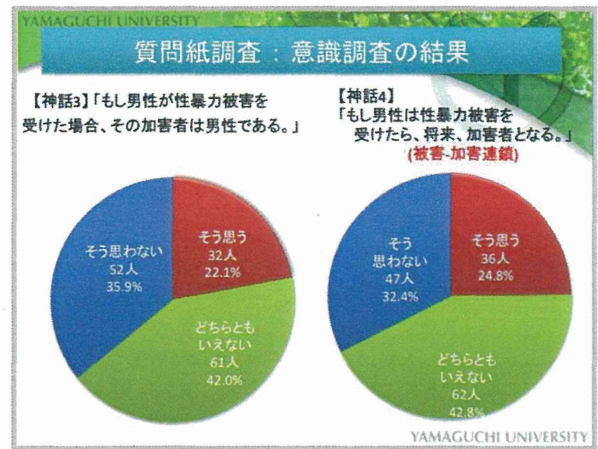
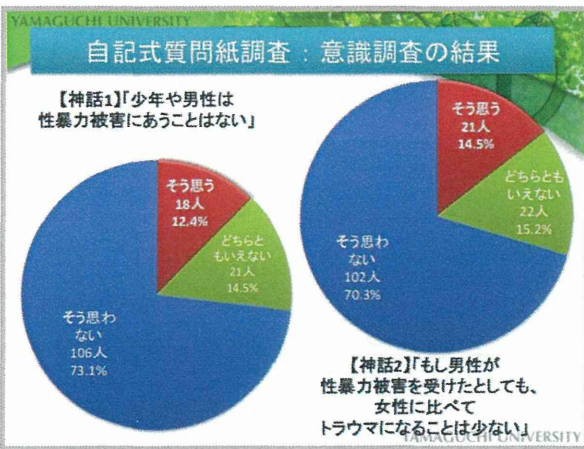
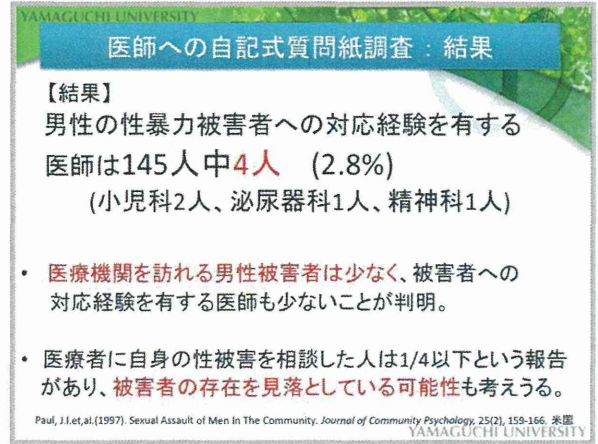
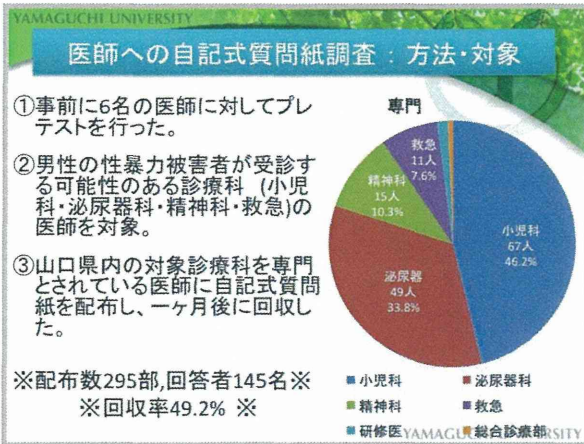
- 1480人中**107人(7.2%)**の男性が青年期に強制的な性的接触 Sexual Contactを経験している。
Sorenson, S.B. et al.(1988). The Prevalence of adult sexual assault. *Journal of Sex Research*, 24,101-112.
- 204人中**69人(34%)**の男子大学生が16歳以降に強制的な性的接触 Sexual Contactを経験している。
Struckman-Johnson, C., et al. (1994). Men pressured and forced into sexual experience. *Archives of Sexual Behavior*, 32(1),93-114.
- 米国の1300の専門機関を調査したところ、172の機関から**3635人**の男性の性暴力被害者の存在が報告された。
Paul, J.I. et al.(1997). Sexual Assault of Men In The Community. *Journal of Community Psychology*, 25(2), 159-166.

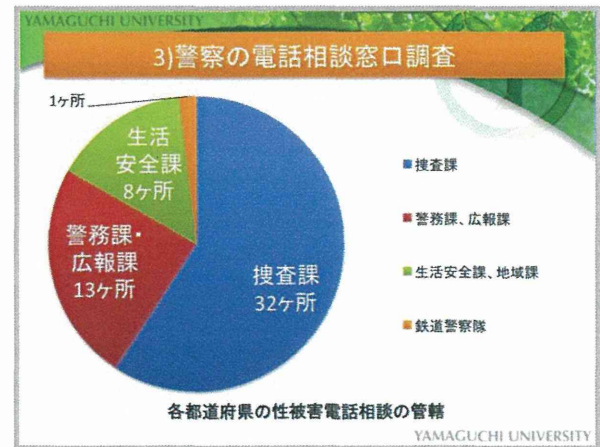
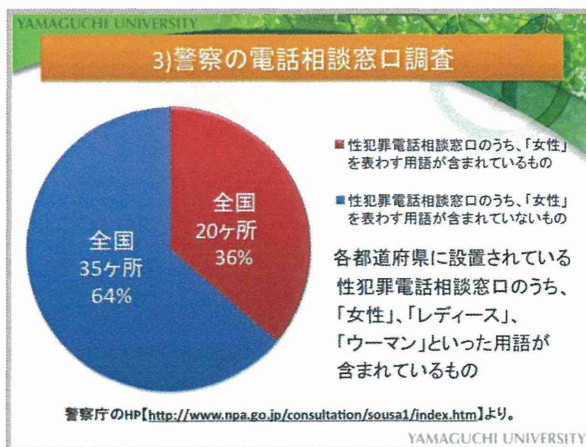
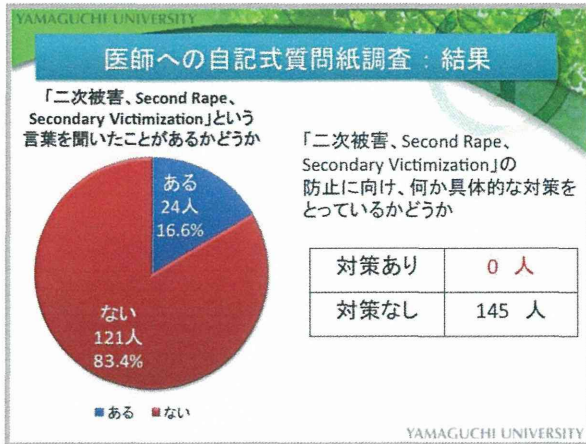
YAMAGUCHI UNIVERSITY

現状

- 女性の性暴力被害者に関する研究は国内外で多く行われているが、**日本では男性が性暴力被害に遭うという認識は乏しく、その現状や対応に関する包括的な研究や論文は少ない。**
- 米国では法律が改正され、**“Rape”**の定義が変更され、**男性にも女性にもRape被害が認められる。**
- 日本では**“強姦”**の罪が成立するのは被害者が女性の場合のみであるとされ、**男性に対して“強姦罪”は適用されない。**

YAMAGUCHI UNIVERSITY





YAMAGUCHI UNIVERSITY

被害者の方への面接調査：【対象】

【対象】
過去に性暴力被害に遭い、現在ではある程度回復され、自助グループに携わり、社会的活動を行っている**男性の性暴力被害者の方**

※本研究は山口大学医学部附属病院医薬品等治験・臨床研究等審査委員会の承認を得ております。※

YAMAGUCHI UNIVERSITY

YAMAGUCHI UNIVERSITY

被害者の方への面接調査：【方法】

【方法】

- 被害者に本研究の主旨を説明後、同意書を提示し、**同意を取得。**
- 同意取得後、面接調査を行った。
(山口大学医学部にて半構造化面接を実施。)
- 面接調査は半構造化面接で行い、被害者の方の**体調や希望を尊重。**
- 面接調査で得られた証言や内容について、**質的に検討し考察。**

YAMAGUCHI UNIVERSITY

YAMAGUCHI UNIVERSITY

【 ま と め 】

- 医療者において、男性が性被害に遭うという認識が乏しく、誤った認識や考えを持つ人もいる。
→→二次被害の問題も発生している可能性が示唆。
- 男性の性被害の現状が知られておらず、ガイドラインやマニュアルも存在せず、社会体制も整備されていない。
- 二次被害を防ぐためには、性暴力被害の基礎知識を身につけ、倫理に精通し、倫理を使いこなせるようになること、また被害者の視点に立つことが必要である。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

【 総 括 】

性暴力被害者の人にとってより良い医療とは、被害者の方だけでなく、全ての患者さんにとって良い医療である。

御清聴ありがとうございました。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

(資料4)

**性暴力被害者が安全にかつ安心して
必要なケアを受けられる
システム構築のための調査研究**

(H22-健危-若手-001)
3年計画の3年目

山口大学大学院医学系研究科
法医学講座
高瀬 泉
(研究協力者：SACHICO代表 加藤 治子)
(研究協力者：京都女子大学法学部 手嶋 昭子)

研究目的

性暴力被害者が事件後の早い段階で適切な医療や心理的なケアを受けると、心身の回復が速まるとされる。しかし、現状は、被害者が医療、行政・司法などの関係諸機関でさらに不快な経験をする事も少なくない(2次被害)。その一方、関係諸機関でも適切な対応をすべく対策がとられつつある。性暴力は、被害者の心身に長期的に影響を及ぼすのみでなく、周囲で支えるパートナー・家族、学校や職場の友人・知人等との関係性にも大きな変化をもたらし、健康福祉・労働などを含めた社会的問題である。したがって、社会として被害者に適切な支援を提供する必要がある。

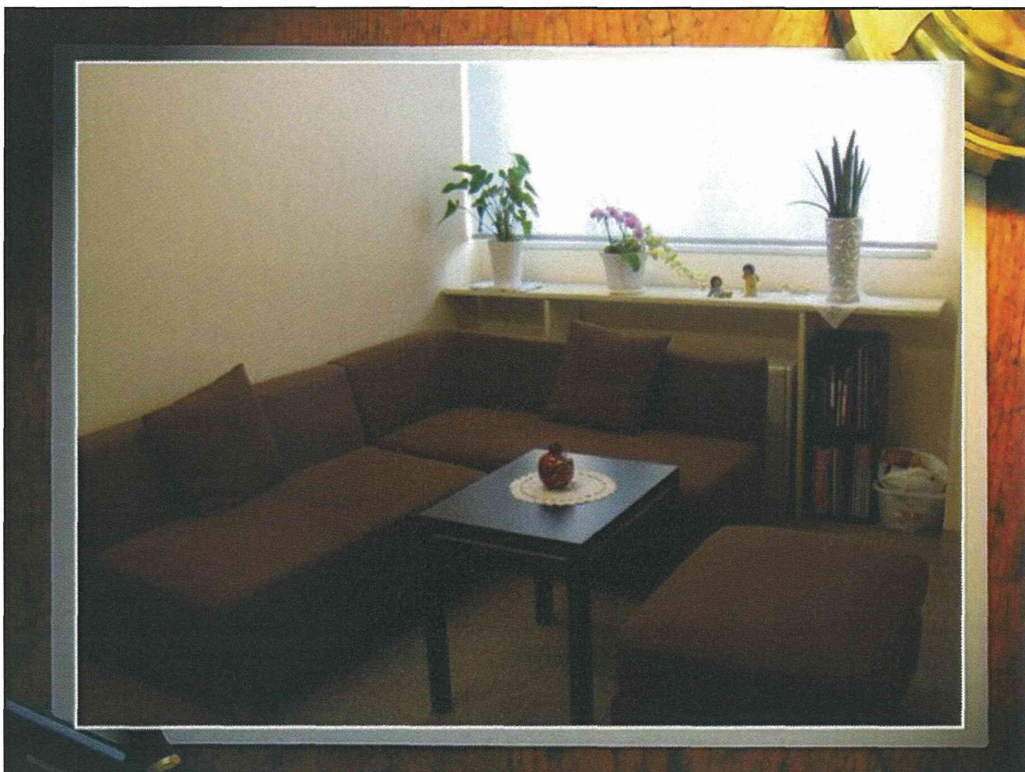
① 2010年4月大阪府松原市の阪南中央病院内に設置された性暴力救援センター・大阪(SACHICO: Sexual Assault Crisis Healing Intervention Center Osaka)で、現場の問題点を抽出しその解決策を探りつつ、モデルとなるシステム構築やガイドライン作成を行う

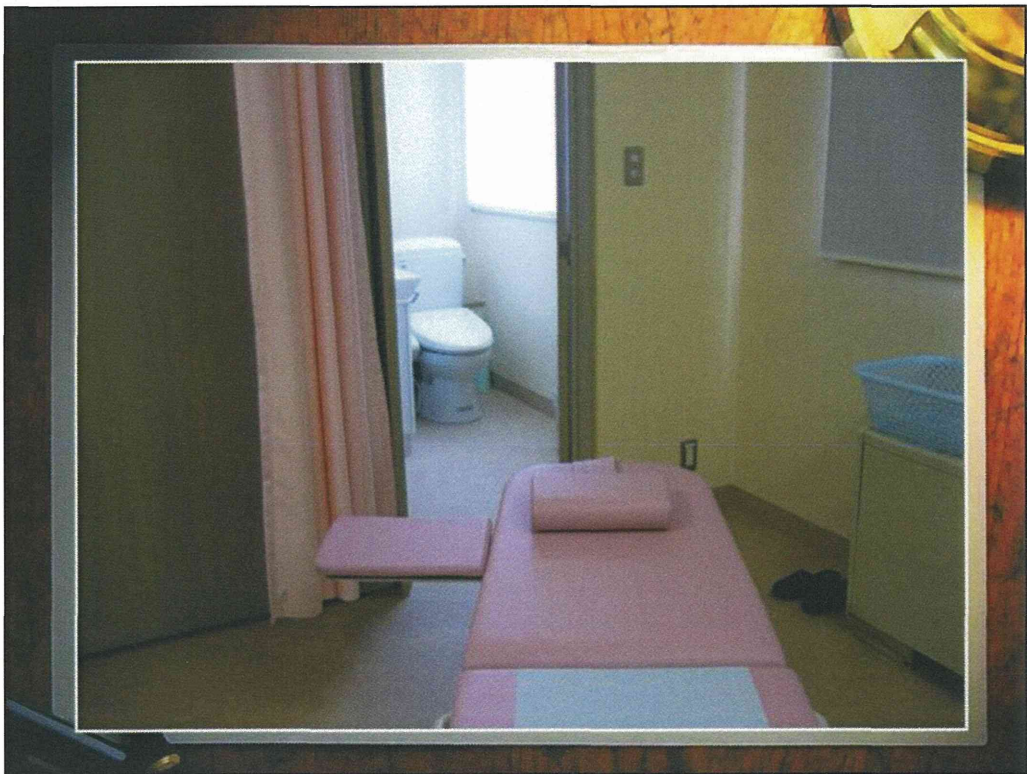
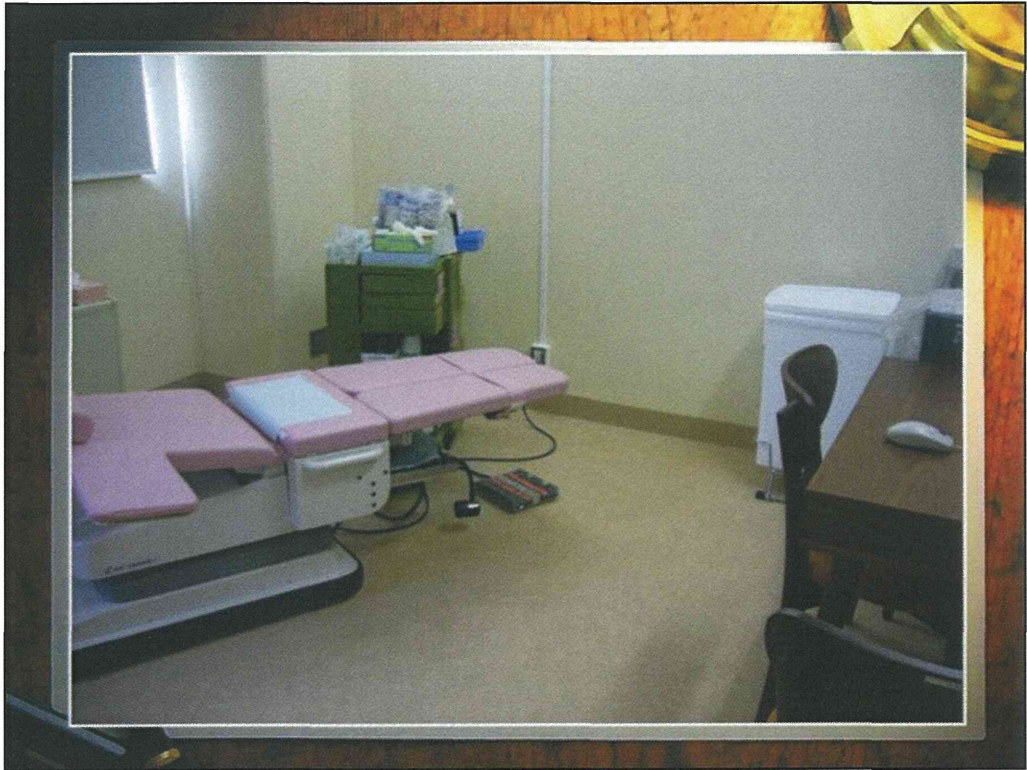
② 男性の性暴力被害者をめぐる諸問題を明らかにする
(大竹優太ら、第49回日本犯罪学会総会、2012)

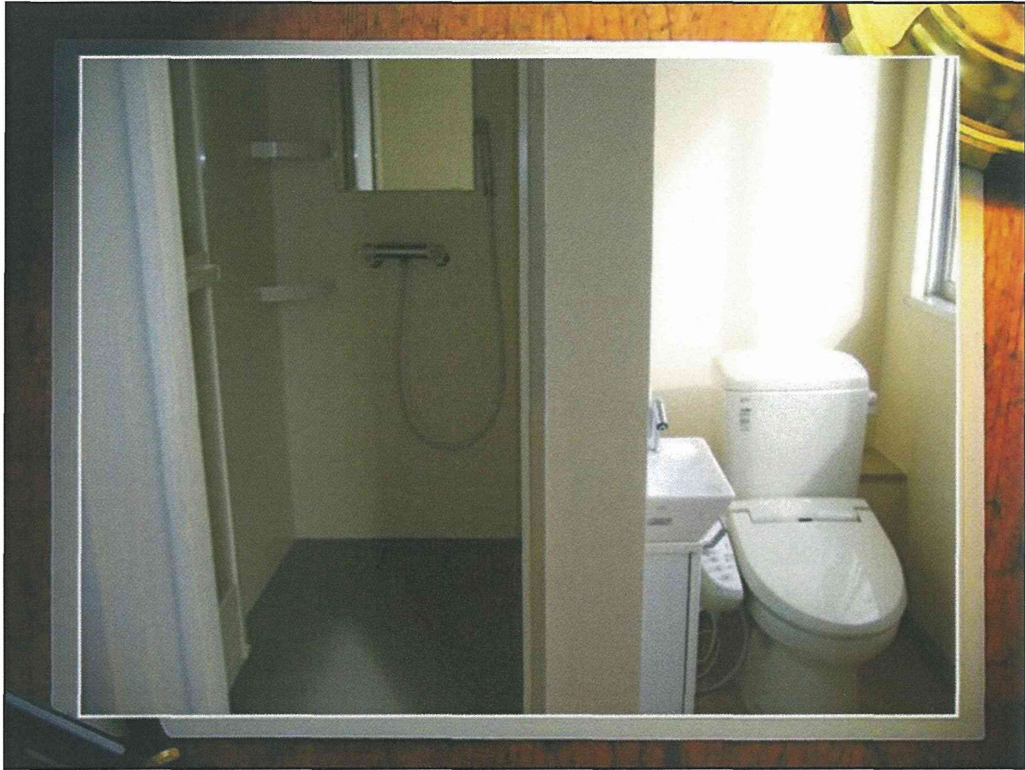
対応の実際

訓練された女性スタッフによる

- ・ 24時間ホットライン
- ・ 24時間来所相談
- ・ 24時間産婦人科的救急医療
〔緊急避妊薬・性感染症治療薬〕
等の処方
- ・ 法医学的証拠の採取・保存
- ・ 女性の安全と医療支援ネット
連携機関（弁護士・カウンセラー等）の情報提供







期待される効果

性暴力は、摂食障害、パニック障害、ひきこもり、うつ、アルコール依存症などの背景に潜んでいる可能性があり、**健康づくり**に関する施策へ貢献できる可能性がある。

さらに、休職・退職せざるを得ない場合があるため、**雇用・労働施策**にも関わる問題である。性暴力救援センター・大阪ではこうした被害者に対してカウンセリング・弁護士・然るべき行政機関等を紹介しており、こういった点からも本研究を施行する意義はあると考える。

本研究において被害者が必要とするケアを提供し、その対応経験に基づくガイドラインを作成することで、他の関係諸機関においても適切な対応が行われると期待される。そして、関係諸機関を訪れる被害者が増え、性暴力被害の潜在化や同様の事件発生の抑止につながる可能性もあり、**Public Safety**という観点からもその果たせる役割は大きいと考える。

また、今般の**チーム医療の推進**という点においてもモデルを示すことができると考える。

研究計画

<1年目>

- ・ 被害者対応の現状調査に基づき、必要な病院内設備・備品、診察・証拠採取(保管)法、診断書等記載方法の検討
- ・ 関係機関との定期的な連絡会設置

<2年目>

- ① 初年度各事項の決定・確立, ガイドライン作成準備
- ② 山口県内の小児科・泌尿器科・精神科・救急医師へ自記式質問紙調査、男性の性暴力被害者へ半構造化面接

<3年目>

- ・ ガイドライン作成

なお、個々の被害者の個人情報管理は厳密に行い、データの公表にあたっては個人が特定されないかたちで行う。

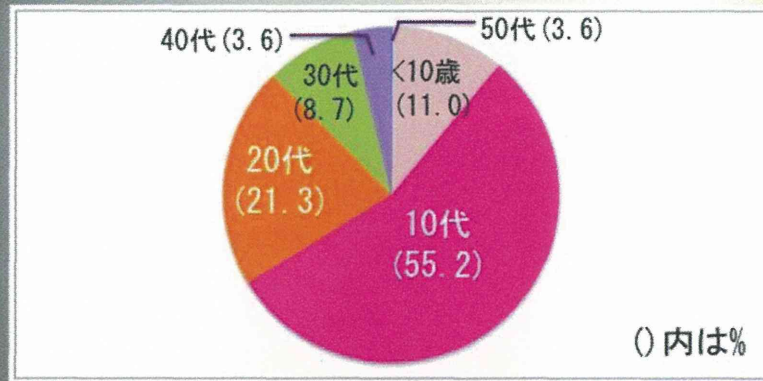
① 対応状況

[平成22年4月-平成24年12月]

電話件数	8,757 (件)	
来所件数	3,922 (件)	
初診人数	507 (人)	
<内訳> 強かん・強制わいせつ	309	} 83.2 (%)
性虐待	113	
DV	42	
その他	43	

① 年齢別分析

[平成22年4月-平成24年10月]
初診者 507 (人)



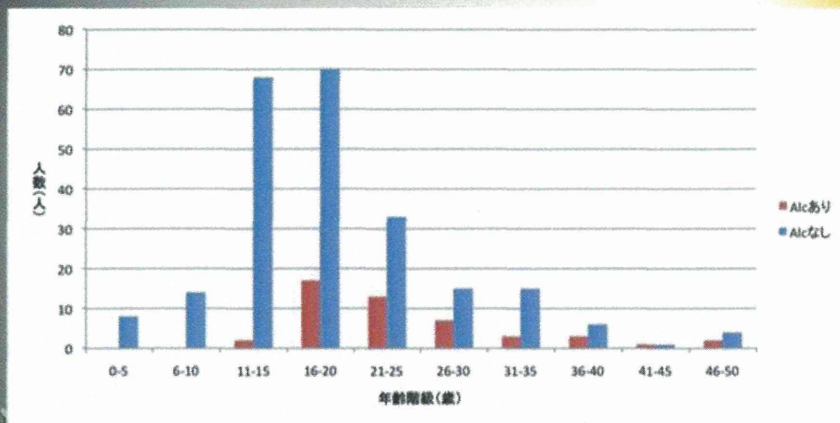
① 特記事項

[平成22年4月-平成24年10月]

レイプ来所者	282 (人)
妊娠	26 9.2 (%)
アルコール関連	48 17.0 (%)
薬物関連	16 5.7 (%)

① アルコールと年齢

[平成22年4月-平成24年10月]



(研究助手：山口大学医学部 村上駿一作成)

② 医師への自記式質問紙調査：結果

【結果】

男性の性暴力被害者への対応経験を有する

医師は145人中**4人** (2.8%)

(小児科2人、泌尿器科1人、精神科1人)

- **医療機関を訪れる男性被害者は少なく、被害者への対応経験を有する医師も少ないことが判明。**
- **医療者に自身の性被害を相談した人は1/4以下という報告があり、被害者の存在を見落としている可能性も考えうる。**

Paul, J.I.et.al.(1997). Sexual Assault of Men In The Community. *Journal of Community Psychology*, 25(2), 159-166. 米国

② 医師への自記式質問紙調査：結果

女性の性暴力被害者への対応に関するガイドラインやマニュアル等を見たことがあるか否か。

ある	25人 (17.2%)
ない	120人 (82.8%)

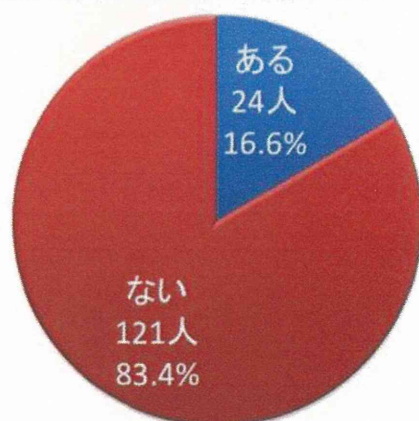
男性の性暴力被害者への対応に関するガイドラインやマニュアル等を見たことがあるか否か。

ある	0人 (0%)
ない	145人 (100%)

YAMAGUCHI UNIVERSITY

② 医師への自記式質問紙調査：結果

「二次被害、Second Rape、Secondary Victimization」という言葉を聞いたことがあるかどうか



■ある ■ない

「二次被害、Second Rape、Secondary Victimization」の防止に向け何か具体的な対策をとっているかどうか

対策あり	0人
対策なし	145人

YAMAGUCHI UNIVERSITY

② 医師への自記式質問紙調査：結果

「医療診察の中で虐待・性暴力被害が疑われる場合、
警察の捜査に協力することは可能か否か？」
(複数回答可)

1. 現状では難しい	37.5%
2. 診察(診断書の作成を含む)や治療を行う。	44.8%
3. 体液などの証拠を採取する。	12.5%
4. 警察からの意見聴取に応じる。	44.8%
5. 意見書・鑑定書を作成する。	12.5%
6. 裁判所などに出廷し、意見を陳述する。	6.3%

① 結論

電話相談件数の増加は、**同センターに対する評価**を示していると考えられる。

- ・ 被害者に必要な設備・備品の調査、設置
 - **超低温冷凍庫**での**絨毛組織**保存
 - **カメラ付きコルポスコープ**所見蓄積
- ・ 診断書・意見書等の記載（仮想ケース）
 - ・ 診察・証拠採取方法に関するマニュアル作成中
- ・ 警察、他機関との定期的な意見交換会
- ・ 関係諸機関へのガイドライン配布（予定）



YAMAGUCHI UNIVERSITY

②【 結論 】

- 医療者において、男性が性被害に遭うという認識が乏しく、誤った認識や考えを持つ人もいる。
→→二次被害の問題も発生している可能性が示唆。
- 男性の性被害の現状が知られておらず、ガイドラインやマニュアルも存在せず、社会体制も整備されていない。
- 二次被害を防ぐためには、性暴力被害の基礎知識を身につけ、倫理に精通し、倫理を使いこなせるようになること、また被害者の視点に立つことが必要である。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

今後の課題

- 警察が主導するかたちでの病院対応の試み
被害者が直後に警察の介入を望まない、
判断できない
などの場合もあり、医療・ケアに重きを置いた
同センターのような制度展開が適切ではないか
→ 東京、神戸、札幌など
- アルコールや薬物分析のための試料採取・保存(管)
性暴力被害は、社会のさまざまな問題の根底にあり、
医療者が果たせる役割は大きいと考える。
「性暴力被害者にとってより良い医療とは、すべての
患者にとって良い医療である」

このような先進的な取り組みに3年間補助金を頂き、
ありがとうございました。

